

未来の教室フォーラム © 2021年11月20日



# チーム学校による 個別最適化された生徒支援

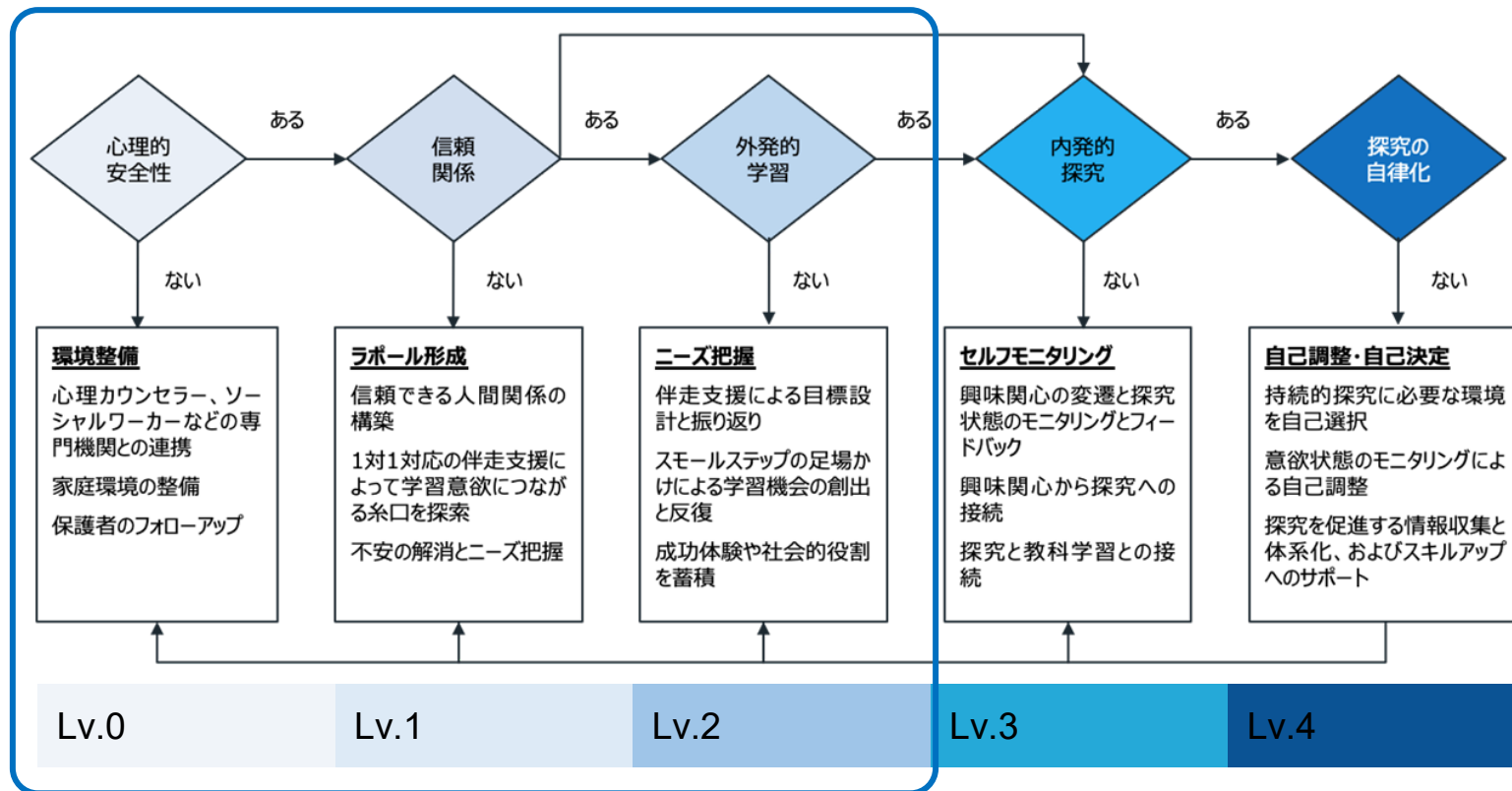


福山市立城東中学校

× J[ SPACE

× Gakken

# 前年度実証の成果「レディネスと段階的支援」



# 今年度実証の活動と目指すべき成果

No.	活動	成果
①	■ 城東中の不登校・不登校傾向のある生徒の現象⇒原因⇒手立ての検討	■ 生徒のレディネスを0⇒1、1⇒2に引き上げる必要性
②	■ 実証での見取りと、城東中の先生方の見取りの結果の比較	■ 見取りの観点を共有し、根本的な原因を探って手立てを検討できるフォーマット
③	■ 支援を実施するにあたっての、支援体制の検討	■ フォーマットも使用した理想的な支援体制案
④	■ 福山市の公立小・中学校の先生方へ、困り感のアンケートの実施	■ 困り感に応じた各種研修
⑤	■ 探究学習を中心とした、学習支援の方法論の検討	■ 目指すべき学習支援フロー・方法案
⑥	■ 以上をもとにした、学習支援だけではない支援の実施	■ 生徒と保護者の方と先生方の笑顔

# 生徒の現象⇒原因⇒手立ての検討結果

仮名	学年	性別	レディネス
D	3	男	0
R	2	女	0
W	1	女	0
F	3	女	0
M	3	女	0
Y	1	女	0
U	2	男	0
E	3	男	0
B	3	男	0
I	3	女	0
Q	2	女	1
P	3	男	1
K	3	女	1
J	3	女	1
N	3	女	1
L	3	男	1
H	3	男	2
O	3	女	2
S	2	男	2
V	1	女	2
X	1	男	2
A	3	男	2
T	2	女	2
G	3	女	2
C	3	女	2

■ レディネス0 : 10名

■ レディネス1 : 6名

■ レディネス2 : 9名

↓

学習支援を行おうとして届く生徒は、前年度の実証と同じ10名くらいではないか。

↓

学習支援を届かせるには、レディネス0の生徒を1に、1の生徒を2に引き上げる支援を、今年度の実証で行う必要があるのではないか。

# 実証での見取りと、先生方の見取りの結果比較

	身体				心理						環境				
	睡眠	疾患	体調不良	特別な教育ニーズ	学力	情緒	社交性	集団行動	自己有用感	関心意欲	生徒間の関係	教員との関係	家族関係	家庭背景	地域の人間関係
先生方のチェック数	2	0	1	0	1	7	4	4	0	2	4	0	1	2	
実証でのチェック数	1	1	2	13	3	2	2	6	9	7	6	7	1	3	

- 先生方と実証での見取りが大きくずれている項目
- 先生方と実証による見取りのずれに大きな偏りが見られた項目

↓

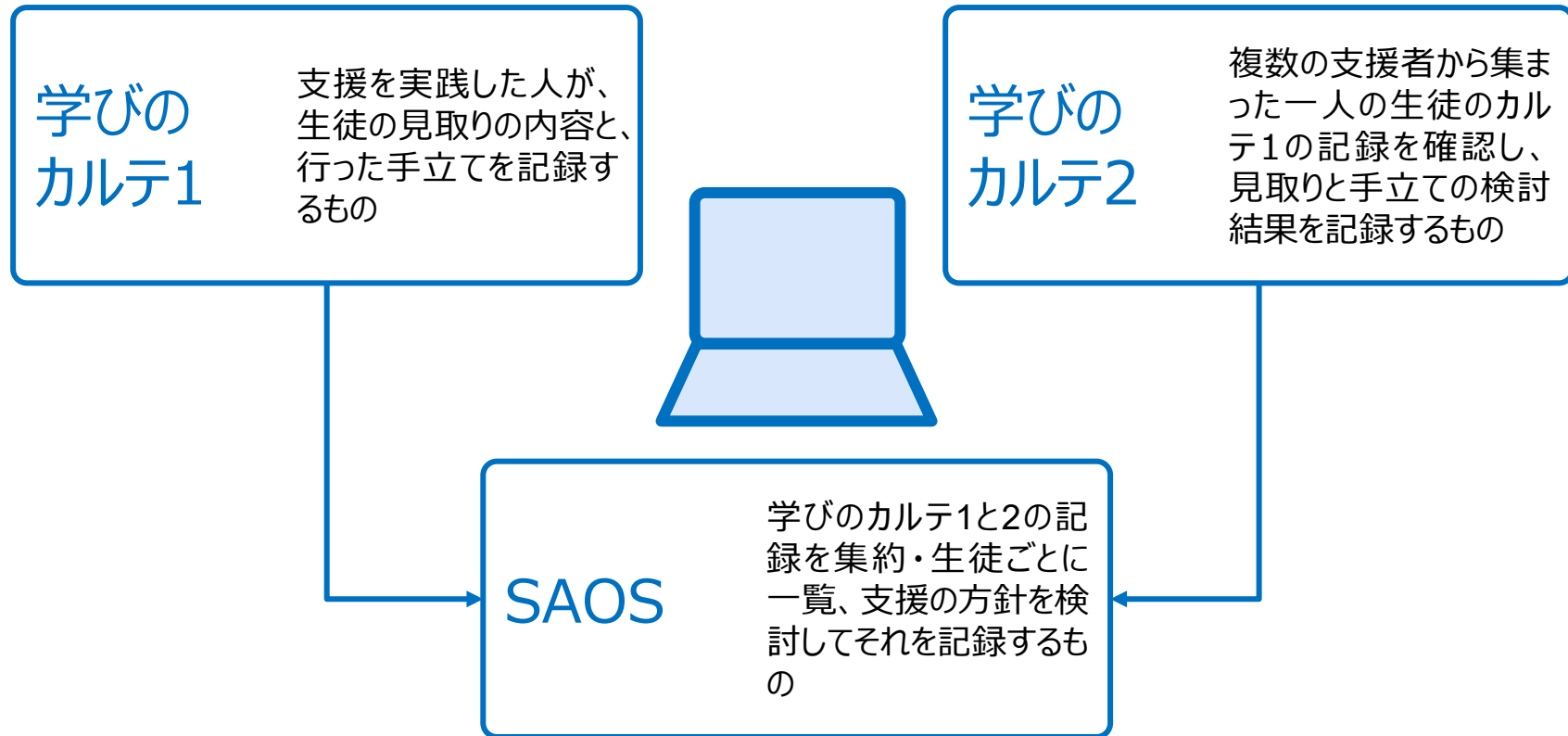
先生方と実証でどちらの見取りが正しいかというより、ズレが発生するケースが多々ある。

見取りがズレると、手立てもズレる。

↓

統一的な「見取りのカタチ」を実現し、そこから手立てを発想するフォーマットが必要ではないか。

# 見取りと手立てを共有するフォーマット



# フォーマットの目的



デジタルで  
支援情報を蓄積

見取りと手立てを共有できる（他の先生がやってらっしゃることを参考にできる）

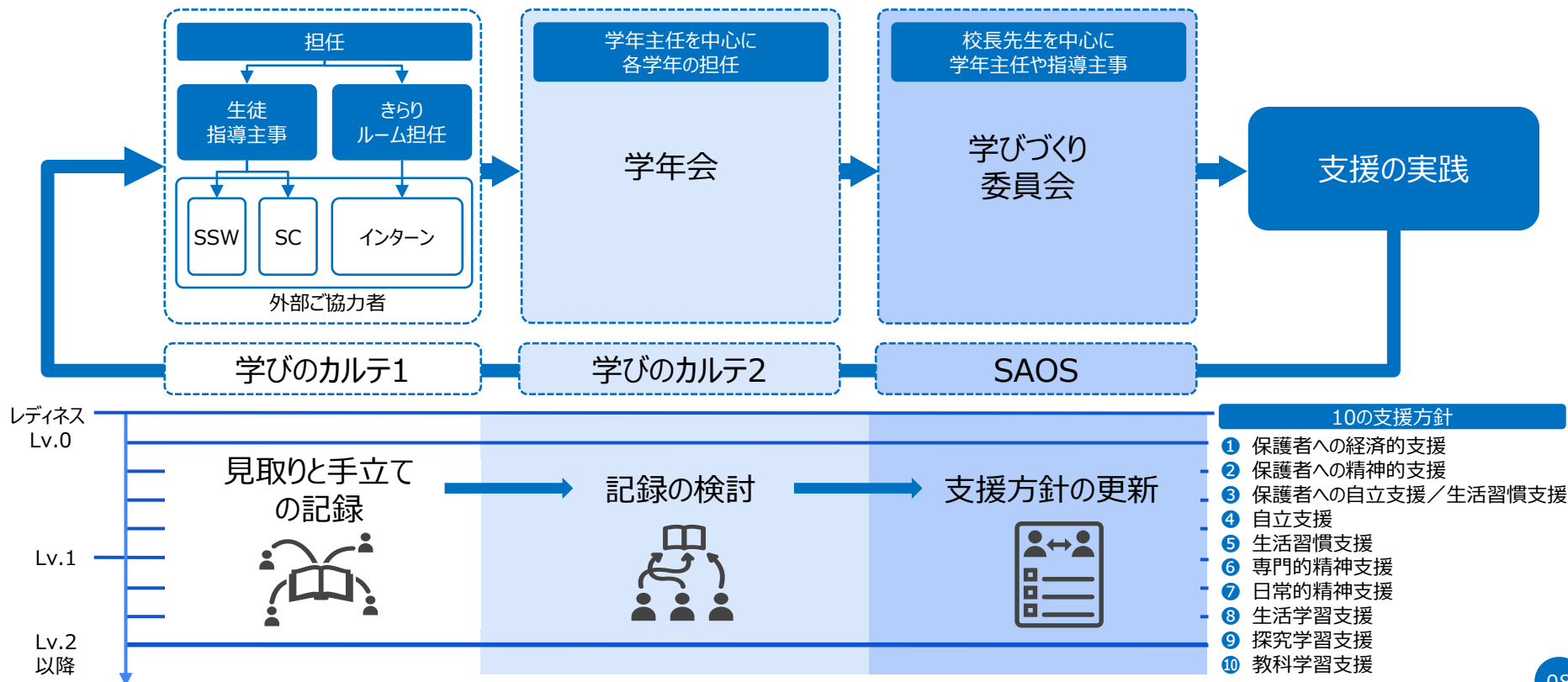
図や表で視覚化することで生徒の状況が理解しやすくなり、次の手立てを導ける

ヌケモレなく、生徒にあった支援を行える



先生方が十二分に取り組まれている不登校支援。  
それを効率化することにチャレンジし、  
十分の力で、十二分の力を。

# フォーマットを使用した支援の体制





# 今年度実証におけるDX

**D**

不登校傾向の生徒の  
見取りと手立ての情報を  
デジタル化

**X**

生徒一人ひとりに  
最適化された不登校支援を  
先生方が行える



不登校支援だけでなく、学校全体に有用なDX